



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>
E-mail info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

ひまわり感謝祭&共に生きる仲間たちのコンサート終わる!!

ご参加ありがとうございました 今年の感謝祭総括

「二〇一五ひまわり感謝祭&共に生きる仲間たちのコンサート」は、十一月十二日(土)、福島市のA・O・Z(アオウゼ)で開催されました。ひまわりプロジェクトの一年間の活動を締め括る「ひまわり感謝祭」は、震災以後開始され第五回目を迎え、また、シャロームの歴史とともに続けられてきた「共に生きる仲間たちのコンサート」は十九回目を迎えました。この二つのイベントは、シャロームを代表するものとなっております。

今年の「ひまわり感謝祭」のメイン企画は「ひまわりプロジェクト地域間交流フォーラム」。「ひまわりプロジェクト」に取り組んでいる全国のみなさんとの交流とこれからの課題を話し合う場となりました。福島から食用ひまわりの種を全国の支援者の皆さんに送り、収穫した種を福島に送り返してもらった。この種をひまわり油「みんなの手」として製品化して送り返す。ひまわりを介して行われる福島と全国を結ぶ交流事業は、栽培だけでなく栽培地の皆さんのもとへ福島の子どものたちを派遣する「子どもひま

わり大使」などの直接的な人間的な交流にも繋がり、福島と受入地域の子どものたちの交流、地域の皆さんとの交流が、一方的な支援ではないさまざまな成果を生んでいることがパネラーの皆さんから報告されました。これについては報告書としてまとめる予定です。また、ひまわりの一生に関わることで、命の大切さと命を育てることの難しさを知り、それを通して人の役に立つことを知ることができると、それを子どもたちが学ぶ良い機会となっており、子どもと父兄、そして地域の協力も得ながら行っている様子が多くの学校から報告されています。「思いやり」の連鎖が「ひまわりプロジェクト」を支え、その輪がこれからの未来に繋がっていくことを実感できたフォーラムでした。

「共に生きる仲間たちコンサート」のメインゲストは北海道の「なおおバンド」さんでした。なおおバンドさんにより「ひまわりプロジェクト」のために製作されたCD「ひまわり」が会場で披露され、プロジェクトのイメージソングが出来上がりました。このCDは団体でプロジェクトに取り組んでくださった皆さんに「ひまわり感謝祭」の終了報告とともに送りました。「ひまわり」の一生を優しく歌いこんだ「ひまわり」に託した思いを聴いてみてください。それぞれの地元での会議や報告会等で役立てていただければと思います。

また、地元での「ひまわりプロジェクト」の報告会等のために、事務局で製作しているプロジェクトの概要紹介のパネル、チラシ、昨年の基調講演録「人間回復の理論と現実」原発事故から四年目のふくしま(福田雅章)、DVD「ひまわり」(ひまわりの曲に載せてプロジェクトを紹介するDVD)が準備されています。今年のひまわり油「みんなの手」も出来てきましたので、ぜひ活用してください。貸し出しや購入についての希望があれば事務局までお願い致します。

今年も一年間皆さんと共に活動してこれたことに感謝しつつ、皆さんと共に積み上げてきたこの成果を新しい年に繋いでいけることを願っています。来年が良い年になりますように。

(シャローム代表 大竹静子)

ひまわり感謝祭が終わった。今年も残すところ僅かとなった。年とともに一年間が短くなってくるように思える。昔の人が、年をとると一年間がどんどん短くなると言っていた。そんな馬鹿な！同じ時間を生きているのに！と思っていたが、確かに早くなっている。去年の感謝祭がつい最近終わったような気がしていると、今年の感謝祭も終わってしまった。無事に皆さんに喜んでもらいながら開催されたことに感謝しなければならぬ。

コンサートは、毎年開催し十九回を終了した。十九年間、毎年休まず開催してきた。会場には、毎年学生ボランティアの皆さんがたくさん参加している。年を聞くと高校生では、十五歳から十八歳、何と一回目のコンサートにはまだこの世に生まれていないこととなる。親子二代にわたりシャロームでボランティアを体験し、社会に旅立つっていく学生も誕生しそつである。

継続は力なり、と言われるが、継続することで、思いは繋がり継承されていく。若い世代が育ち、昔のように自分で飛び回れることも少なくなってきた。シャロームのボランティアを体験した子どもたちが、これからの未来をつくる。このための一年として、今年一年間を振り返る。(T・O)

